

NODA

8 2014
月号
野田地域版

厚生労働大臣から感謝状

手作りにこだわる食事サービス
配食サービスでさらに手厚く
地域の女性のチームワーク

防災意識ボトムアップ

地域主催による初の防災講演会
東日本大震災の実体験に学ぶ
個人の意識と地域の心構え

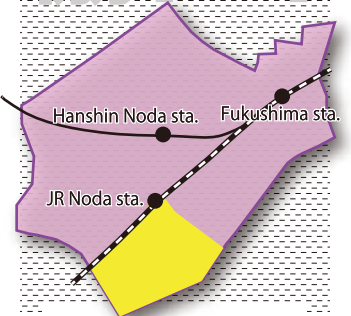
特集

高齢者
と

防災

MODEL
野田地域活動協議会
小西 克彦 会長

野田地域活動協議会



発行：野田地域活動協議会

【窓口】
福島区まちづくりセンター
電話 06-6462-1117
〒553-8501
福島区大開 1-8-1
福島区役所5階



<http://fmcen.jimdo.com/>



「防災意識向上・災害体験講演」 約80名の参加者が被災の実体験に熱心に聞き入っていました

01

向こう三軒両隣り

「防災意識向上・災害体験講演」

野田地域は、戦前の木造長屋が立ち並び、福島区でもとりわけ高齢者が多い地域です。そこで防災については、日々防災リーダーを中心に、より一層の備えを大切にしています。

野田地域活動協議会では、6月20日、野田コミュニティセンターにて、東日本大震災で被災された福島県いわき市出身の遠藤雅彦さん（福島区まちづくりセンタースーパーバイザー）をお迎えして、地震発生から避難までの流れ、津波の様子や避難所の状態など、実体験に基づく貴重なお話を伺い、防災の備えについて、今一度考える機会を設けました。また、実体験から発案されたという「重要な43点の防災グッズ」や、地域で揃えると良い「自主防災資機材」についても、再度確認することができました。

終了後に実施したアンケートでは、「実体験なので迫力があり心に響いた」「まず逃げることを徹底」「防災拠点の規模確認をしたい」「グッズを再度点検したい」「得た知識を周りに伝えたい」「野田地域の心構えが広まればと思った」など、いつにも増して多数の意見が寄せられ、会場は熱気に包まれました。

02

手作りが一番

「高齢者食事サービス」

なかには「他地域でも講演会を開催してほしい」という声もあり、福島区まちづくりセンターでは、野田地域を皮切りに、今後は福島区の他地域でも同様の講演会を開催されるそうです。今回、参加できなかった方も、ぜひ今一度、いざという時のことを考える機会とされてはいかがでしょうか。（詳細は福島区まちづくりセンター ☎6462-1117 までお問合せください。）

高齢者食事サービスは、昭和63年から開始され、当初は弁当屋に配達してもらった弁当を提供していました。しかし高齢者により喜んでもらえるメニューにするため、女性会有志たちから「自分たちで手作りしよう」との声が出て以来、月2回の手作りの食事サービスが現在にまで受け継がれています。女性会メンバーが各チーム7〜9名編成・計12チームで活動しており、食事サービスの日は、朝9時から調理を開始し手際よく配膳しています。

また、足の不自由な高齢者など会場に來れない方に「配食サービス」も実施しており、こうした一連の取組が、平成10年に大阪市から表彰され、さらに平成23年には厚生労働大臣から感謝状を拝受いたしました。

